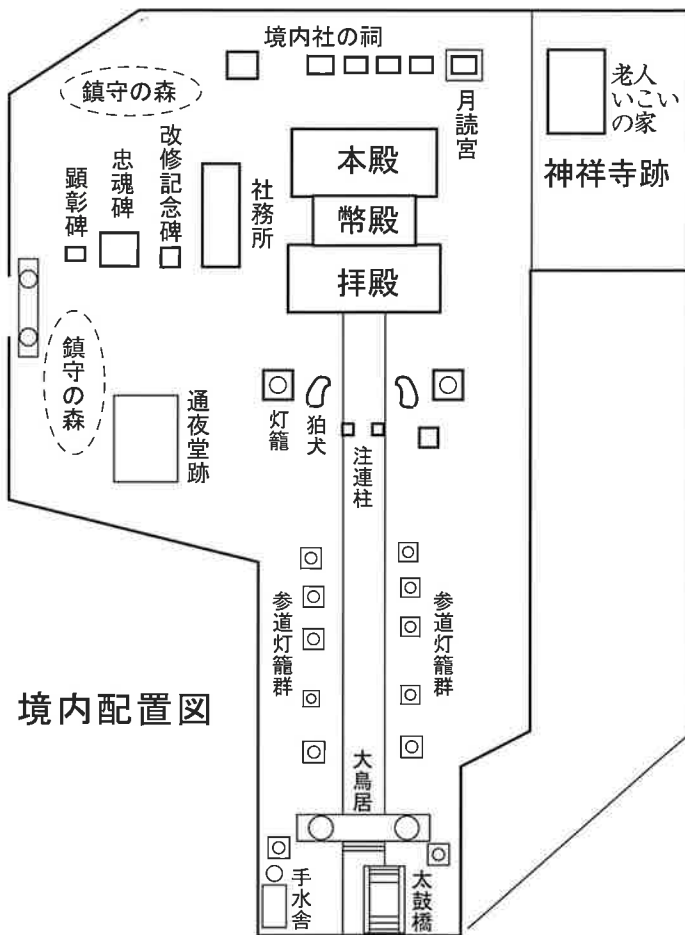


# 国津姫神社



山口県防府市大字富海 2758 番の 1



境内配置図

## 合祀神社

八坂神社 (石原)  
壇安神社 (堂の上)

## 境内神社

脇村荒神社 (脇)  
恵美須神社 (西の浜)  
杵崎神社 (八崎)  
天王社 (野田)

## その他の史蹟



### 八崎杵崎鼻の若宮祠

寛延元年 (1748) 八崎杵崎鼻に若宮 (杵崎社) を建立 (徳山藩蔵本日記) 現在国津姫神社に合祀。  
祭神 級長津彦命 (しなつひこのみこと) 級長戸辺命、玉姫命 風鎮の神として崇められ、昭和の中頃まで近郷から船で多くの参詣者があり、脇、朝日、東浜の東部青年団が奉仕作業を行っていた。門前地区の棚田では、二百十日に風鎮祭の行事として、棚田の畦に松明を風の字型に連ねて、青年団が火祭を行っていた。

詣者があり、脇、朝日、東浜の東部青年団が奉仕作業を行っていた。門前地区の棚田では、二百十日に風鎮祭の行事として、棚田の畦に松明を風の字型に連ねて、青年団が火祭を行っていた。



### 佐伯守雄の顕彰碑

佐伯守雄は、国津姫神社の祠官にして人徳学識高く、多くの子弟に慕われる。徳山部第4小学校創立により助教となり子弟の教育に没頭する。  
多くの子弟の中には、友安治延中將のような勲功を収めた偉人もあり、読み書きのできる村人も多くなり、師の功徳をたたえて石碑にとどめている。



## 国津姫神社の由来

国津姫神社伝記によれば、上古の時代に富海人の祖先が、郷土の祖神として、三女神を岡の宮の地に奉斎したことに始まると云う。「明神様ハ、推古天皇ノ御宇、筑紫ノ宇佐島ヨリ御船ニ召シ給ヒテ、津々浦々ノ宮所ヲ得サセ賜フ時、富海ノ浦ニ着キ賜ヒシヲ船岡ニ祠リ・・・」とある。

脇地区の岡の宮（船岡山）に明神様をお祭りしてから幾年かの月日を経ての後、明神様の御宣託により浮洲と呼ばれていた現在の宮地に遷宮することとなり、多くの村人たちにより、岡の宮の明神様を元宮として国津姫大明神社を創建した。

主祭神の三女神は、天照大神の同体分身で、筑紫の国の宗像大社・安芸の国の厳島神社・豊の国の宇佐神宮の祭神と同じく、水徳の神と言われ、いずれの地でも海辺に崇祭されている。

## 国津姫神社の祭神

主祭神 (天照大神の三柱の姫神様)  
 田心姫命 タゴリヒメノミコト  
 湍津姫命 タギツヒメノミコト  
 市杵島姫命 イチキシマヒメノミコト  
 配祀神  
 神夏磯姫命 カムナツソヒメノミコト

国津姫神社は、航海安全・交通安全・五穀豊稔の守護神として、また村の産土神としても篤く崇敬されています。

## 毛利元就の防長攻略と

### 国津姫神社の社殿修造

弘治3年（西暦1557年）の、毛利と大内の戦いで富海の戸田山・石原・脇は戦禍に巻き込まれ国津姫神社の社殿も社坊も戦火に遭遇する。

毛利元就は、日頃から崇敬する厳島神社と同じ祭神であることを知り、6年後の永祿6年（1563年）に社殿を修築した。

修築した社殿の棟札に、「最初建立、承平五年乙未至今及三百余歳・・・」と書かれていたと富海村史稿にある。（承平五年は西暦935年）

## 社殿修造と周辺史蹟の変遷

奉修造御宝殿最初建立承平五年乙未  
 至今及三百余歳

是当時大檀那大江朝臣毛利右馬頭元就

為四海静万民快樂祈願如件干時永祿陸年

卯月十日



文政7年(1824)八埵開作  
 築造祈願 自然石灯籠

元禄2年(1689)  
 境内大鳥居を建立  
 元禄4年(1691)  
 江川に「欄干橋」を架橋



安永2年(1773)徳山藩主  
 毛利就嗣 拜殿(竜宮造)  
 を造営

## 永祿六年以後の年表

- 天正十二年 児玉周防守就方、社殿造営
- 慶長十八年 領主福原広俊、社殿造営
- 寛文年間 富海は徳山藩領となる
- 延宝三年 一時堂上山へ移転
- 元禄二年 藩主毛利就隆、社殿造営  
 境内の鳥居・灯籠・欄干橋・石垣の整備始まる
- 享保四年 社殿再建
- 安永二年 通夜堂(舞殿)修理
- 天保十年 藩主毛利就嗣、龍宮造拜殿造営  
 浜の大鳥居建立
- 明治二年 神祥寺廃寺(神仏判然の令)  
 銅板屋根に葺き替え
- 昭和二十年 本殿屋根銅板葺き替え
- 昭和四十六年 社殿の大改修、社務所新築
- 昭和六十二年



天保10年(1839) 東浜参道に大鳥居建立



古来、秋の大祭には多くの若い衆により東浜の参道から御神輿を船に載せ、八埵岬を周回する海上御神幸祭が行われていた。

## 社坊瑞雲山神祥寺と 富海小学校の歴史

神祥寺の創建は不明。弘治3年、神祥寺も戦火に遭遇し多くの神社宝物や記録を消失したと伝う。再建された寺も、明治2年の神仏判然の令により廃寺となるが、明治5年の小学校令発布と同時に徳山部第4小学校として授業をはじめ。明治6年、国津姫神社境内に富海小学校を新築。明治35年に字御幸に移転した。

その後、昭和年代まで民家として利用管理されていた。所在地は、境内東隣りの「老人いこいの家」敷地。